

下水道展'07へ出展します！

開催期間：平成19年7月24日～27日
 場所：東京ビックサイト 東展示棟1・2・3ホール
 出展会社数：約350社
 来場者予想数：105,000人以上

弊社ブース：東3ホール6-33
 出展テーマ：レジテクトBT工法

ご来場をお待ちしています！！

案内状のご入用の方はご遠慮なくお申し出下さい

担当：レジテクト本部 東京支店 三浦
 TEL 03-5381-0666



日本下水道事業団品質管理センターは、近年改修工事が急増して来た事や、新しい防食工法が出現して来た事に対応するものとして平成14年12月の「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」の改訂を検討して参りました。既に文章の校正段階に入っており、弊社は昨秋から日本防食協議会の一員として「防食指針改訂部会」・「品質管理マニュアル部会」(部会長・弊社)・「10年保証検討部会」の三部会を通して日本下水道事業団に協力しております。

- 以下今回の改訂ポイントについて述べます。
- ① 防食指針とマニュアルを分離し、一般には「マニュアル」のみを製本し販売する
 - ② 現指針に記載されている防食工法の設計仕様例は削除され、いわゆる性能規格への完全移行となる
 - ③ 改修工事やシートライニングに関する記述が充実される
 - ④ 塗布型工法にも10年保証が求められる(保証書の提出)
 - ⑤ 躯体の表面処理後の状態検査には専門技術者や躯体施工者の立会いも義務付けされている
 - ⑥ 新しい材料規格では、耐酸性を保持したシーリング材の品質について定められている
 - ⑦ 修復モルタル改め、セメント系断面修復材として規定されている

又、このマニュアルの中で事業団から弊社に対しポリウレアのピンホール検査電圧曲線の資料提供や工事記録写真の撮影要領について内容の取り纏めを要請され、資料を提供しております。尚、新耐酸モルタルの指針作成(追補版)については約一年ずれ込み来年になるとのことです。

今後共、下水道事業団とは密にコンタクトし、有益な情報をより早くBN会員の皆様に提供していきたいと思っています。

東京支店長 播磨 強

徳島処分場でポリテックS(ノンクロス)工法が採用されました

本防食工事は、エポキシC種(1プライ)での特記仕様の為、当初はポリテックC工法(エポキシC種)を提案いたしました。

ポリテックC工法は他社のエポキシC種工法同様にガラスクロスを一層入れる工法です。

しかし、本工事は予算・工期とも余裕のない厳しい案件でした。そこでこの要求性能を満たす、ポリテックS工法(ノンクロス工法：下団C種合格)を提案しました。その結果、この工法で3,500㎡を一月足らずで施工することが出来ました。

性能面では、通常のエポキシ工法よりはるかに優れ、ビニルエステル樹脂に近い性能を発揮します。さらに、ポリウレアの弱点である有機酸に強く、今後は耐有機酸用の樹脂としても期待できます。

施工上の特徴は、ガラスクロスを使用しないため、工程の削減による工期短縮というメリットはありますが、コテ塗工法のため熟練度を要します。また、ピンホールの発生にも注意及び対策を要します。

本防食工事では、以上のことに注意を払い、特に問題なく終了いたしました。

今後は、下地追従性に優れ、大幅工期短縮が可能なレジテクトBT工法(ポリウレア樹脂吹付け工法)にポリテックS工法を耐有機酸用として加え、各用途に応じて適材適所で選定していきたいと考えております。

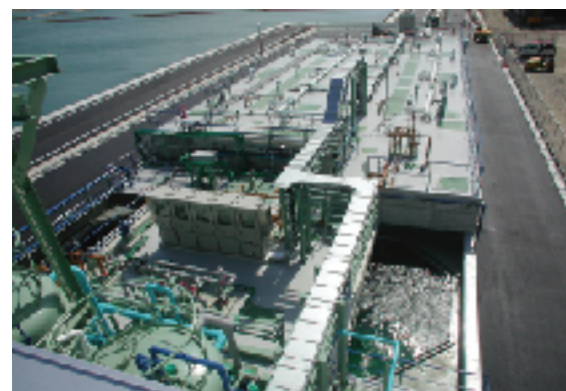
東京支店 SV 三浦 顕滋郎

物件名：徳島東部臨海処分場余水処理施設
 施工地域：徳島県
 工期：2006年9月25日～10月20日
 工法：ポリテックS工法(ノンクロス工法)



写真上 処理層内部全面(床・壁・天井)を順次こて塗り仕上げで施工しました

写真下 3月下旬に竣工し供用開始されてます(写真下提供 ㈱環境新聞社)



港湾施設の防食にBT工法

昨年の12月に兵庫県相生市内において、BT-T工法の試験施工を実施しました。対象構造物は沿岸に設置された鋼管杭(φ1016×4本)で、杭の干満帯に耐食性・耐衝撃・耐摩耗性・追従性に優れたポリウレア樹脂をライニングしました。施工上、海上への飛散対策が必要と考えられますが、干潮時の短時間に施工・塗膜形成が可能な超速硬化スプレー方式による良好な施工性を改めて確認することが出来ました。沿岸地域には塩害を受ける鋼構造物が多数あります。今回の実績を足がかりに港湾施設への展開が期待できます。

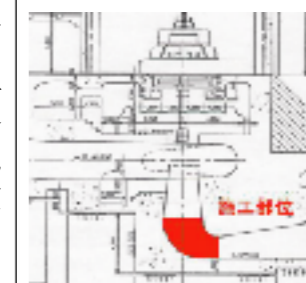
事業推進部主任 SV 小山 隆二



施工地域：兵庫県相生市
 工期：2006年12月
 工法：レジテクトBT-T工法

広がる用途

発電所ドラフト(放水路)にBT工法



千曲川水系の塩川発電所タービン直下のドラフト部コンクリート表面保護工にBT-C工法が採用されました。

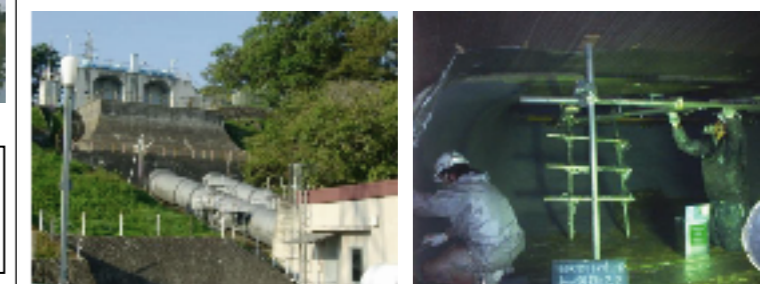
この工事は22年前にゴム系コンクリート保護塗料で補修をした経過があり、今回は2度目になります。現設計は前回同様の仕様でしたが、放流水の水流によるコンクリートの損耗・劣

化を保護する目的を満足させる工法として、BT-C工法への変更提案を行い、採用されるに至りました。

特に水流からの耐摩耗性、又、水が直接河川に放流されるため、使用材料の安全性が求められたこと、発電停止期間が限定されている中で工期短縮と確実な物性が得られることが提案のポイントでした。

施工地域：長野県上田市
 発注者：東京電力(株)千曲川発電所
 工期：2007年1月28日～2月7日
 工法：レジテクトBT-C工法

株式会社小宮山土木
 環境事業部
 取締役部長 山中 幸典



東名阪自動車道滝ノ水工区でSQS工法(CVスプレー)を試験施工中

東名阪自動車道滝ノ水工区において、本年1月より地下防水側部・SMW壁の防水にSQS工法・先付工法の試験施工を行っています。工期短縮・防水性能の向上の為ゴムアスファルトシートに替わる工法として、昨夏より種々の防水工法を検討の結果今回の試験施工となりました。施工は中部国際空港・名古屋市地下鉄等地下防水においては数々の実績を誇る(株)大阪防水建設社名古屋支店により進められています。1月着工以来3月まで3ブロック(約200㎡/ブロック)を既に完了しました。現在施工中のSMW壁は芯材部分にスタッドジベル筋が縦方向220ピッチで2本設置されており、フレキシートの貼付け・CVスプレー吹付の作業性が悪い為、施工方法を毎回検討し材料ロス及び施工効率の改善に取組みコストの低減に取り組んでいるところです。毎月1ブロックのペースで進んでおり5月にも本施工へ移行が決定される予定です。

中部地方は現在最も元気なエリアの一つに上げられている地域でもあり、このような大規模工事への採用は今後大きな力になるものと大いに期待しています。

中部営業所所長 SVリーダー 杉島 明人



施工地域：愛知県名古屋市
 工期：～2011年3月
 工法：SQS(CVスプレー)工法
 施工会社：(株)大阪防水建設社 名古屋支店